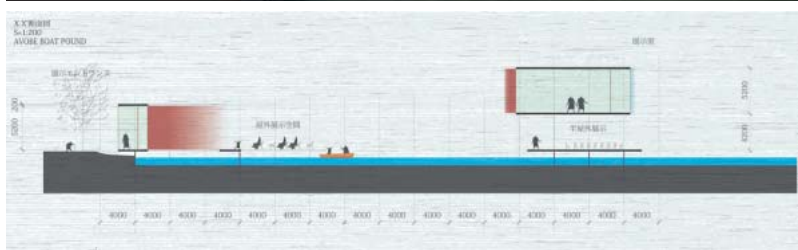




## つがいの建築／美術館／都市

鴨志田 航 (かもしだ わたる)

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



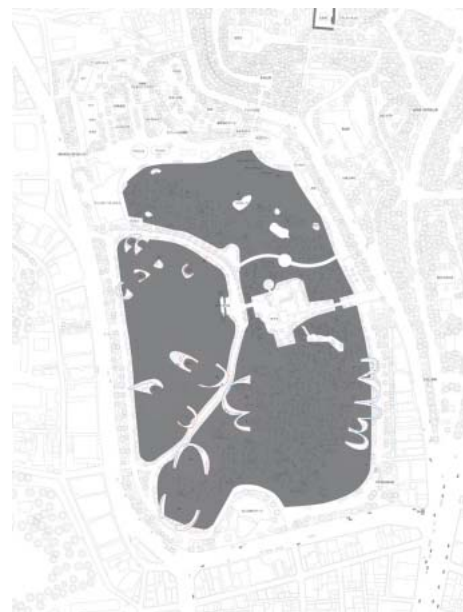
情報通信技術の発達による社会変化は、実生活にも浸透し始め、メディアとの関わりの重要性は日々増している。

芸術は、その変化を敏感に捉え、メディア芸術というかたちで表現し始めている。

そのような、情報技術によって変化するメディア芸術のための美術館を上野の不忍池に構想する提案である。

離れた関係にあるものを繋ぐメディアとしての役割を建築に落とし込み、あっち側とこっち側に緩やかな関係にあるように配置する。

美術作品といってもつがい同士でインタラクティブな関係を構築し、2つの間に物理的な水面や蓮、ボート、鳥などが挟まれることで、周りの環境を取り込むことができる。



**講評** 日本で芸術の中心地である上野、その公園内の不忍池に、メディア芸術のための美術館群を建てようという計画である。美術館の個々の建築がそれぞれ美術館としての機能を果たしながら、それとは別に2棟で1つの「つがい」の関係性をなし、佇んでいる様はなんとも美しい。それ自体がアートである。そのアートの中に自然が干渉して来るのである。「つがい」の関係性の間に池の水面があり、波紋が広がり、蓮があり、鳥が飛来し、ボートが行き交う。時の流れを織り込んだ環境あるいは景観アートとも言えるだろう。現代のとどまる所を知らない変化し続けるメディアの世界を、そのまま映し出しているようでもある。作者の美しい創造の世界がそのまま模型に表出しているのだ。願わくは、その美しい質感や軽やかな存在感を失わないよう実現されんことを。

(審査員：安達 文宏)